

# 教宣 せぶん

## 「2週間総行動」後半 はじまる

しっかりたたかい切って自らの道を切り拓こう

会社が判決日の翌日の27日に控訴していたことがわかりました。また、社内施策、すなわち判決を受けてのRA社員への出方は、原告には控訴判決が出されるまでRAとしての身分は保障するが、それ以外の者については、予定通り「特命社員」になってもらうというものです。判決要旨は「不利益が大きすぎるから制度廃止は違法、無効である。よってRA社員は7月1日以降もその地位にある」というものです。判決を真摯に受け止めれば、私たち原告だけではなく、内勤雇用の道にすすもうとする者にも、「判決」をくみとった再考案を考えなければならないはずです。しかし、会社は、内勤社員を志すものに対して、あくまでスケジュール通りにものごとを運ぼうとしています。この出方・姿勢をみると、やはりこの会社は、私たちがたたかわなければならぬにも変えようとしなない考えの持ち主だということがわかります。「おかしい」「間違っている」と声をあげ、行動で示さなければ、自らの考え方をいっさい動かさないことがわかります。相手が金融庁ならば話しはまったく別ですが、第三者機関の判決や命令を速やかに受け入れ、自主的に考慮し改善策を出すなどという考えは毛頭ないようです。経営としての歪んだ「こだわり」、資本としての「傲慢さ」が、奇妙な「プライド」として、この会社の「考え方」の底流に横たわっているようです。

この経営の考え方を目にして、あらためてたたかわなければ何も変わらないと再認識しました。さらに私たちの腹はかたまりました。たたかいは「2週間総行動」後半を迎えます。仲間が同じ釜の飯を食いながら、全国各地で、抗議行動、要請行動、宣伝行動をおこないます。

ある原告である組合員が「このたたかいは始まった時に、正直、街頭に立ってピラを配ることも、マイクを握って訴えることも、ゼッケンをつけることも抵抗感があつた。しかし、こういった行動を積み重ねていくことによって、いまではそんな抵抗感や躊躇感はまったくなくなった」と言っていました。素直な、正直な言葉だと思えます。私たちのたたかひのエネルギーに火をつけてくれるのは、こうした会社の傲慢な態度に他なりません。2週間総行動、しっかりたたかい切って、自らの道を切り拓いていきましょう。